

低コスト耐震工事負担額は

個人負担額は平均51万円



あさの 浅野 修一 議員

会を今年度中に開催する。

問 9月議会の答弁で、低コストな耐震補強等について、10月に県から来町し説明があると聞いたが、有益な情報はあったか。あれば、今後どう生かすのか。

答 松本 情報防災課長

問 町民の、南海トラフ地震への不安を少しでも解消し、犠牲者を出さないことが町の努めと考える。耐震化なくして犠牲者ゼロはあり得ない。町の現状と今後の対策を問う。

答 松本 情報防災課長

平成27年12月時点の耐震化率は、改修工事認定済みを含めて39・7%。今後、耐震診断を実施した758人のうち、耐震設計の済んでいない612名を対象に、個別相談

10月21日に県との勉強会を初めて実施。耐震改修が進まなかった原因の一つに、多額の工事費用が掛かるといった根拠のない風評が町内に多く存在したと考える。

高知県では、低コスト耐震

補強促進版を作成し推進している。平成27年度で改修工事を行った町内30件の改修工事

に対する平均個人負担額は実質51万円。工法は今後も進化

すると思うし、耐震設計費用の自己負担は少額だ。とにか

く耐震設計に繋げたい。

子育て支援

保育所被災時 職員の対応は 各保育所で 個別に設定

問 保育所が震災などにあつた時の保育所職員、および本庁内の職員の対応は。

答 畦地 教育次長

保育所ごとに独自の防災マニュアルを毎年度作成し、毎月避難訓練を実施。警報解除後、安全を確認し、引き渡しカードを基に引取り者へ引き渡すことにしている。

問 1歳児の受け持ち人数、おおむね6名を、4名もしくは5名にできないか。

答 坂本 教育長

6名ないし7名の現状で、大きな支障や悪影響はないと考えている。なお、現場にも出向き確認したい。

山林保護

未来の黒潮町 山へ投資を 森は海の恋人 森林管理必要

問 山林保護は黒潮町の未来へのキーワード。山への投資が必要だ。同時に鳥獣被害対策についての町の考えを聞く。

答 尾崎 海洋森林課長

「森は海の恋人」と例えられるが、現状は高齢化、森林制御意欲の減退、木材価格の低迷等により管理が不十分。各種補助金を計上し、対応している。

鳥獣被害対策は、黒潮町鳥獣被害防止計画を策定し、今後も取り組みを継続する。



「協働の森」の作業風景(佐賀久保浦)